

# 幸せの企画術

「普通」の尊さへの気付き

新型コロナウイルスは様々なダメージをもたらしましたが、同時に、今まで当たり前だと思っていたことが実は当たり前ではなかったという「普通」の尊さにも気付かせてくれました。私自身もコロナ禍で海外に渡航できなかったことで、日本の地方が持つ価値に改めて気付くことができました。

「当たり前前」だと感じている身近な物事に目を向け、視点を変えてみると、手に入れられる幸せが日常の中にたくさん存在していることに気が付きます。人々が当たり前だと感じていることをちょっとした工夫で面白くすることで、幸せを創造するという気持ちを持続しながら日々仕事に向き合っています。観光客が来ることによって熊本県民が地元の良いさを再発見し、幸せになってもらうための観光キャンペーン「くまもとサプライズ」や、そのイメージキャラクター「くまモン」、また、日本独自の入浴文化を「道」にすることで価値を見いだす「湯道」などはこうして生まれました。幸せは探し求めるものではなく、気付くものなのです。

企画とはバースデープレゼント

企画を立てる際、「その仕事は新しいか、自分にとって楽しいか、誰かを幸せにするか」の3点を満たしているか、常に問いかけています。その点、バースデープレゼントは、幸せを創造する企画の原点だと考えており、私の会社では、企画の練習として、社員の誕生日にサプライズを行うこととしています。私がこれまで受けたサプライズの中でとりわけ印象的だったのは、陶芸家の辻村史朗さんの酒器を奈良で購入し、そこから東京までの約500キロを私が代表を務める3社、計45人の社員が駅伝形式

放送作家・脚本家・京都芸術大学副学長

小山薫堂  
こやま くんどう



## 小山薫堂

1964年6月23日熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科在籍中に「11PM」で放送作家としての活動を開始。「料理の鉄人」「カノッサの屈辱」など斬新なテレビ番組を数多く企画。脚本を担当した映画「おくりびと」で第32回日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第81回米アカデミー賞外国語映画賞、第60回読売文化賞を獲得。執筆活動の他、地域・企業のプロジェクアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。2025年大阪・関西万博ではテーマ事業プロデューサーを務める。熊本県のPRキャラクター「くまモン」の生みの親でもある。「湯道」を提唱し、一般社団法人湯道文化振興会を創設。2023年2月23日には、企画・脚本を担当した映画「湯道」が公開された。

本記事は、パートナーズプログラムにおける  
レクチャーをまとめたものです。

で送り届けてくれたことでした。私が好きな陶芸家の酒器と駅伝をかけ合わせたアイデアに加えて、私を起点とした3社が協力して一つのことを行ってくれたことに、多くの価値を感じました。私が何をプレゼントされたら喜ぶかを考え抜き、協力して一つのことを成し遂げた社員もまた、私が喜んでいる姿を見て笑顔になります。

このように、人を想い、人を幸せにするために創られた企画は、幸せの連鎖を発生させ、それを見ている企画者本人も幸せにすることができます。究極の企画とは、自分の人生を幸せにすることなのです。